



平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業  
推進校実施報告書

- 1 学校名 : 熊本県立盲学校
- 2 実施日時 : 2017 (平成 29) 年 3 月 3 日 (金)
- 3 対象 : 小学部 6 名・中学部 4 名・高等部 1 名 計 11 名
- 4 派遣パラリンピアン : ゴールボール日本代表選手 2 名  
小宮正江さん (アテネパラリンピック 銅メダル、ロンドンパラリンピック 金メダル)  
浦田理恵さん (ロンドンパラリンピック 金メダル)

5 授業内容 : 講演・実技

2017 (平成 29) 年 3 月 3 日 (金) に、熊本県立盲学校にて、ゴールボールの日本代表であり、パラリンピックに 4 大会 (アテネ : 2004 年、北京 : 2008 年、ロンドン : 2012 年、リオデジャネイロ : 2016 年) 連続出場し、アテネパラリンピックで銅メダル、ロンドンパラリンピックで金メダルを獲得された小宮正江さんと、3 大会 (北京、ロンドン、リオデジャネイロ) 連続出場し、ロンドンパラリンピックで金メダルを獲得された浦田理恵さんをお招きし、ご講演と実技指導を行っていただきました。

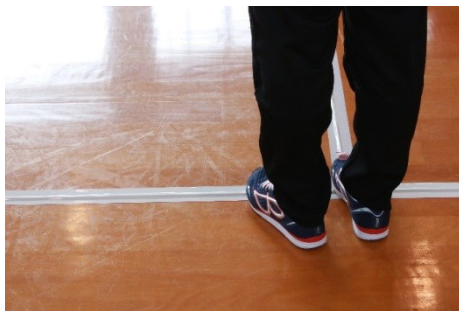
講演では、小宮さん、浦田さん、そして講演を聴くすべての児童・生徒の自己紹介の後、ゴールボールのルールなどの説明のほか、お二人がゴールボールをはじめたきっかけやゴールボールをする中で経験したことなどについてお話しいただきました。特に浦田さんにとっては 20 歳で視力を失って以来、自分にはできないことばかりだと限界を決めていた日々が続いたそうです。しかし、そうした日々の中で、学校の先生に「目が見えなくてできないことを探すのではなく、できることをたくさん見つけたらとても楽しくなるよ！」と言われたことが転機となり、失敗してもいいから挑戦してみようと思えるようになったと言います。そしてこの時、テレビで小宮さんが活躍するパラリンピックのゴールボール競技を視聴したことで、目が見えなくてもできることへの可能性を感じ、強く憧れを抱いたことがゴールボールをはじめたきっかけだったとお話しされました。

浦田さんは、このように見えないからこそできるスポーツに出会えたことを、神様からのごほうびだと思うと語り、壁にぶつかった時こそ成長の機会になると信じて笑顔で乗り切ることが大事だと児童・生徒にメッセージを送られました。また小宮さんは、「やってやれないことはない、やらずにできるわけがない」という言葉を紹介され、ご自身もこの言葉を胸に常に目標や夢を持ちながら、失敗から学ぶ姿勢を大切にしているとお話しされました。そして最後には、失敗してもいいからまずは一歩踏み出すこと、そして何回も何回も失敗する中でうまくいかない時には周りに助けを求めて良いから、まずは色々なことに挑戦してみて欲しいと力強く児童・生徒に語りかけられました。

## 6 事業の様子



「夢への挑戦」をテーマに、挑戦することの大切さや、挑戦してきたことで得ることができた素晴らしい経験などについてお話しされた小宮さんと浦田さん。お二人の力強いメッセージは、講演を聴く児童・生徒にきっと大きな夢や希望を持たせたものと思います。



実技指導では、ゴールボールのコートラインの下に通してある紐を手や足で触りながら自分の位置を把握すること、ディフェンスでは全身を大きく使ってゴールを守ることなど、ルールや大事なポイントなどについて、丁寧にご指導くださいました。



実技指導の後半では、児童・生徒同士で試合を行いました。全員ゴールボールは初めてでしたが、お互いにコミュニケーションをとりながら必死にゴールを守る様子がとても印象的でした。また、中学部・高等部ともなると、ボールにも勢いがあり、さながら本物の選手の試合のような迫力がありました。



代表で挨拶をした生徒は、お二人のお話を踏まえ、自分の持つ夢について語ってくれました。また、集合写真では全員の笑顔がとても輝いており、児童・生徒にとって良い事業になったことが窺えました。